

## 2017年版学習指導要領が実現したこと、積み残したこと

上智大学 奈須正裕

### 1. 実現したこと

- ①子どもの「学び」と「知識」に関する科学的な知見を足場に教育課程政策を立案するという方針と具体的な手続きを実現した
- ②「社会に開かれた教育課程」という理念を確立した
- ③学力論を「内容」中心から「資質・能力」を基盤としたものへと拡張した
- ④概念や知識相互の関連に言及し「知識の質」という考え方を提起した
- ⑤教育方法のあり方を巡って「主体的・対話的で深い学び」という考え方を打ち出した
- ⑥「各教科等の特質に応じた見方・考え方」という考え方を提起し、各教科等の目標に位置付けることで、各教科等の認識論上の特質の明確化を推進した
- ⑦「カリキュラム・マネジメント」の考え方を打ち出すと共に、教科等横断的な視点に立った教育課程編成を各学校に要請した
- ⑧「単元（題材）」という考え方を復活させた
- ⑨「評価はコミュニケーション」という考え方を打ち出し、「形成的評価」重視の評価論へと歩みを一歩進めた

### 2. 積み残したこと

- ①「社会に開かれた」の意味合いが、社会的効率主義に解釈されかねない
- ②「知識の質」という考え方を、しっかりと伝えられていない
- ③「見方・考え方」の書きぶりの足並みが、各教科等により不揃いである
- ④「教科等横断的な資質・能力」育成の具体が十分には描けていない
- ⑤「資質・能力」育成を打ち出しながら「内容」の削減や編成原理の刷新ができなかった  
・・・「内容」の側からの「資質・能力」の整理に留まった

### 3. その後の展開（令和答申、GIGAスクール構想等）も含めて、課題だと思うこと

- ①子どもの発達権・学習権（子どもが幸せになる権利）の全面保障において、公教育がカバーすべき、あるいはカバーすることが可能な範囲の明確化
- ②アウトソーシング、サードプレイスをどこまで広げるのか。そのことが、かえって学校教育の矮小化や保守化につながる危険性はないか
- ③社会教育、地域創生との関係をどう考えるか
- ④教育課程全体で見た場合も含めた、各教科等の任務（ミッション）の再定義
- ⑤「資質・能力」や「見方・考え方」（知識・価値・美の生成方法と主要な概念）の側から、各教科等の「内容」の整理や再構造化をどこまで進められるか
- ⑥小中高で見た場合の教科等の名称の整序の可能性と意義の検討
- ⑦STEAMとの関連で、テクノロジーやデザインの教育を教育課程の縦横の系統の中にどう位置付けるべきか、あるいはどのように可能か